



令和5年度 第2回
熊本市動植物園マスタープラン推進会議

前回会議（5月開催）における ご意見への対応状況

No.1 東海大学と動植物園の調査研究に関する組織化

『大学の研究データを実際の飼育や施設の改築などに落とし込むようなシステムを作れないか?』

『調査研究している立場と動植物園の担当者が定期的に報告しあえる組織を作りたい。』

Before

- × 研究データを飼育や展示に落とし込むシステムがない
- × 調査研究者と動植物園の担当者が定期的に話し合える組織がない



After

- ✓ 研究成果を来園者に紹介するため、研究データを元に掲示板やポスターを作成
- ✓ 東海大農学部との連絡協議会(年1回程度)開催に向けて調整中
- ✓ 大学の研究者と飼育担当者がお互いに研究発表する研究報告会、年度当初には研究相談会、年度中間には経過を報告する経過報告会を開催し、連携体制の強化・構築に向けて調整予定



No.2 (仮称) SNS発信ボランティア

『ボランティアさんの動物ガイドや植物の管理に関して、ボランティアさん自身で投稿してもらうとか、インスタグラムのストーリーズ等でその人を紹介してあげるとかはどうか?』

『職員のみならず、発信ボランティアみたいなものを募って、SNSの発信をしてはどうか?』

Before

- × ボランティアさんの活動等に関するSNS発信が少ない(参加者からも)
- × SNSの投稿は当園職員のみによる発信



After

- ✓ SNS発信ボランティアの制度化にあたり、加入条件等を整理
→ ネットリテラシーに関する審査手法や投稿のルール、当園での精査等、相互の負担が大きくなることから、別の形の手法を検討
- ✓ ボランティアに関連した特定のハッシュタグ投稿を設け、バズった投稿者にインセンティブを与える形式の制度に関して現在検討中



『動植物園以外の市役所の方や委員の皆様も含めて”アニマルウェルフェア”について、確認する機会を作ってほしい。』

Before

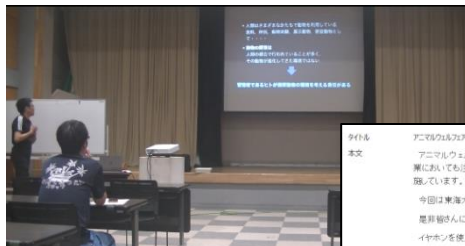
- 園内職員のみを対象に、動物福祉に関する勉強会を自主的に実施
- × 動植物園以外の市役所職員がアニマルウェルフェアを学ぶ機会がない

動物福祉の5つの領域

① 栄養 〈正〉適切な栄養、取得可能な食物 〈負〉食物の欠乏、水の欠乏、栄養不良	② 環境 〈正〉環境的機会と選択 〈負〉環境的課題
③ 身体の健康 〈正〉良好な体調、能力 〈負〉疫病、傷	④ 行動 〈正〉行動表現 〈負〉行動制約
⑤ 精神的状態 〈正の経験〉 堪能、遊び心、安心、報償、好奇心、満足、活力、 目標に向けた取り組み、仲間としての親愛性、落ち着き	
〈負の経験〉 苦痛、消耗、退屈、恐れ、弱さ、欲求不満、悩み、 精神的混乱、怒り、不安、息切れ	

After

- ✓ 園内で実施したアニマルウェルフェア勉強会を撮影し、市役所全庁掲示板にて動画配信



タイトル	アニマルウェルフェア（動物福祉）について学びたい。
本文	アニマルウェルフェア（動物福祉）とは、「動物が生まれてから死ぬまでの身体的・心理的状態」を指し、ペットや畜産業においても注目されています。動物園でもアニマルウェルフェアに配慮した飼育を目指し、勉強会を開催しています。 今回は東海大学の伊藤教授がアニマルウェルフェアの歴史や背景を分かりやすく説明してくれました。是非皆さんにアニマルウェルフェアについて知っていただけたらと思います。今回の勉強会動画を共有いたします。イヤホンを使用して視聴ください。 →動物福祉に関する勉強会 動画 【内容】 10:00-10:10 第1章 動物はどのような「動物」なのでしょうか？動物園に在る動物 10:10-10:20 第2章 動物園の動物はどのような動物なのでしょうか？動物園の動物 10:20-10:30 第3章 アニマルウェルフェアに配慮するとは？動物のストレス、痛み、辛さを科学する 10:30-10:40 第4章 アニマルウェルフェアに配慮するとは？動物園で実践されていることは？AWC（動物の法律・基準） 10:40-10:50 第5章 日本のAWC（動物の法律・基準）とは？動物園の動物はどのような動物？動物園の動物はどのような動物？ 10:50-11:00 第6章 動物園の動物はどのような動物？動物園の動物はどのような動物？動物園の動物はどのような動物？

市役所職員用ポータルサイトに掲載

『江津湖は動植物を含め、生態系として非常に価値がある。園内の日本庭園の小川でも生態系を感じられる部分はあるが、より生態系を感じられる展示を取り入れてほしい。』

Before

- 日本庭園は熊本固有のヒラモが自生し、湧水を生かしたスイゼンジノリの養殖が可能
- × 一方、一部の川底には外来植物のオオカナダモや泥の蓄積が見られ、ホタルの減少に影響を与えていると考えられる
- × ふるさとの自然エリアに隣接する“よし池”は、水は濁り、外来生物のアカミミガメやコイが泳ぐ等、十分に活用できない状況にある



After

- ✓ 日本庭園では、上記の長所を残しつつ、外来植物を除去し、江津湖流域の植物やホタルが生息できる環境の再現を目指す

- ✓ よし池では、以下の改修を目指す（右図参照）
- ・タナゴが生息できる環境整備
- ・水生生物等が生息する棚田の整備
- ・よし群生地の整備
- ・学習プログラム等へ活用



『トゲネズミは血統システムでいい個体がいるので、もし飼育されるなら知見のある宮崎大学も近いため、連携してやってほしい。』

Before

- × アマミトゲネズミ飼育場所が未整備
- R5年1月に開催されたトゲネズミ類域外保全検討作業部会（主催：環境省）に新規参画の希望提出済み



出典：環境省HP

アマミトゲネズミ



飼育室内観（改装前）

After

- ✓ 飼育現場予定場所の事前視察を受入れ、その後開催されたアマミトゲネズミ飼育管理検討会議（主催：JAZA）にて飼育環境の指摘を受ける
→ 現在、現飼育園館に相談しながら、指摘箇所の改良を実施中
- ✓ R6年2月開催予定であるトゲネズミ類域外保全作業部会の審議を経て、アマミトゲネズミ新規飼育（R6年度開始）の可否結果を受ける予定



飼育管理検討会議（リモート参加）



飼育園館の飼育状況（神戸どうぶつ王国）

『学習プログラム集について、小学校・中学校だけではなく、例えば一般向けに開催して、参加費を徴収することはできないのか？』

Before

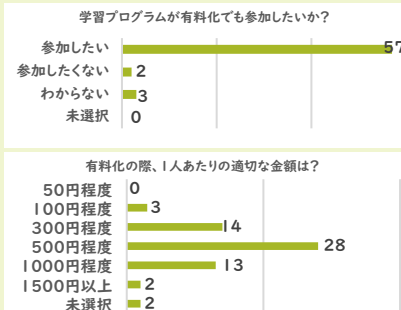
- × 現在の学習プログラム参加費は無料



After

- ✓ 一般向け学習プログラムの参加費の徴収について検討するため、夏休みの小学生向けサマースクールに参加した保護者にアンケートを実施
- ✓ アンケート結果を踏まえ、まずは成果品を持ち帰れるプログラムについて、来年度以降の有料化を目指す

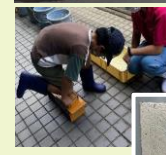
サマースクール保護者アンケート結果



来年度有料化を目指すプログラム



➢ 動物園で断角したキュウシュウジカのツノでアクセサリを作ることを通じて、獣害やシカと人との関係について考えるプログラム
※作成したアクセサリは持ち帰れる。



➢ ゾウの糞を使ったハガキ作りを通じて、ゾウの生態やゾウが生息する環境について考えるプログラム
※作成したハガキは持ち帰れる。

No.7

企業と連携したPR (HP・SNS)

『企業PR動画に当園を素材として使わせるような制度はありますか？』
 『100周年記念サポーター等に参加している証明書みたいなものを作成してはどうか？』

Before

- × 企業PR動画撮影に関して、特定のインセンティブ等の付与はなし
- × 企業様からの寄附やサポーター加入においてもデジタルでも使える証明書の付与はなし(寄附額に応じて感謝状の贈呈を実施)



After

- ✓ 企業様から寄附の相談があった場合は、PR動画など撮影も当園でできる旨を合わせて説明
- ✓ 企業様からの寄附があった際に、企業様側のHPなどで掲載可能なバナー画像を作成
 → 企業様には自社HP等でバナーを掲載し、支援したい動物の獣舎前では社名やロゴを記載した看板を設置するといった制度運用に向けて、現在調整中



No.8

動植物園の施設(空間等)の最適化

『おしゃれな空間を創出し、全体的に俯瞰して、没頭できる空間を創出してほしい。』

Before

- × 案内板などが新旧のデザインが混在し統一感がない
- × カラーコーンを置いただけで規制や誘導を行っている



After

- ✓ 古びた看板を撤去し、園内のデザインと統一した案内板を設置
- ✓ カラーコーンを車止めも兼ねてプランターに置き換え季節毎に花苗を植栽
- ✓ 今年度は、動植物園入口電停～正面ゲートまでの導線を中心に案内サインの改修を実施し、今後も老朽化施設をメインに継続して改修予定

